



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 327

März 2018

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

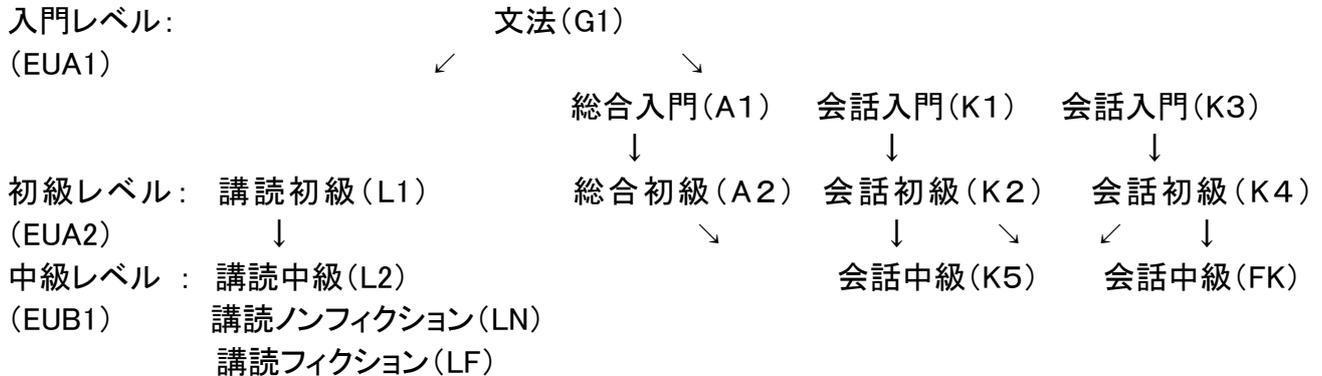
651-0087 KOBE/JAPAN

2018年度ドイツ語講座開講

会長 柘田 義一

4月9日(月)より2018年度ドイツ語講座第I期を開講します。

2018年度のドイツ語講座は、コミュニカティブな授業の充実を図りました。2018年度のクラス編成は下図のように段階的な履修をしていただけるようにしました。



総合クラスは日本人の先生によるコミュニケーションに必要な総合的な能力の習得を目指します。会話クラスは主としてネイティブの先生による会話中心のクラスです。会話入門 K1と K3、会話初級 K2と K4は開講曜日時間帯の違いであり、ご都合に合わせて受講して下さい。

新設の会話中級 K5クラスは、外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(CEFR)を研究し、コミュニカティブ授業の経験豊かな新任の杉谷眞佐子関西大学名誉教授が担当します。ドイツのランデスクンデや異文化間コミュニケーションのテーマを取り上げ、ドイツ語での表現力を高めていく予定です。必要に応じて文やテキストのレベルで、文法の学習を補っていきます。ゲーテ・インスティテュートの上級クラスを志す方にお勧めのクラスです。会話中級 EK クラスは、その都度テーマを取り上げてのディスカッションに重きを置いたクラスです。

上図での矢印はお勧めの受講段階を示したもので、途中段階からの受講も可能であり、歓迎いたします。授業内容の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。

今年こそドイツ語を通じてドイツへの新しい扉を開いてみませんか。受講をお待ちしています。

ハンブルク桜の女王・ハンブルク独日協会の歓迎会

2017年5月にハンブルク独日協会主催のハンブルク桜の女王選出大会にて第二代ハンブルク桜の女王の栄冠に輝いたアルマゴー・アンナさんがハンブルク市独日親善大使として来神します。桜の女王にはハンブルク独日協会の橋丸栄子会長と幹部会員が同行して来られます。神戸独日協会は歓迎会を開催しますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

日 時： 2018年4月5日(木) 19:00～21:00

場 所： 神戸酒心館さかばやし

神戸市東灘区御影塚町1-8-17 TEL 078-841-2612

会 費： 6000円

当日会場にてお支払いください。(3日以降のキャンセルは後日会費をいただきます)

申 込： 4月3日(火)18時までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

☆JR 六甲道からの送迎バス(18:35発)を希望される方は、申込時にお申し出ください。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第15回 『日本とドイツとそれから私』

今回は、ドイツ国家検定通訳・翻訳士(Staatlich geprüfte Dolmetscherin und Übersetzerin)としてご活躍の池田ビルギットさんに、これまでのお仕事での、日本に在住してのご経験からお話をさせていただきます。会員のみならず多くの方のご来聴をお待ちしています。

・講 師： 池田ビルギット Birgit Ikeda さん (ドイツ国家検定通訳・翻訳士)

ドイツ南部バイエルン州生まれ。地元高校卒業後、ソルボンヌ大学でフランス語の勉強。1986年からハイデルベルグ大学で日本学を専攻。1990/91年に1年間奈良教育大学に留学。ハイデルベルグ大学で日本学の修士課程修了。

1994～96年の2年間大分県直入(なおいり)町役場で国際交流員として勤務(ドイツの姉妹都市との交流を担当)。2004年ドイツ国家検定翻訳士の資格を取得。日独・英独翻訳・通訳の仕事。

1996年夏から八鹿で生活、3児の母。

・日 時： 2018年3月13日(火)14:00～16:00 (開場 13:45)

・会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

・会 費： 会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)

当日受付にて支払いください。

・申 込： 3月12日(月)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

Tel/Fax 078-230-8150 E-Mail : info@jdg-kobe.org

法人会員活動紹介 株式会社 ユーハイム

海外派遣事業で兵庫県スポーツ指導者の育成に貢献

事務局 笠原 和男

ユーハイムでは、公益財団法人 ユーハイム体育・スポーツ振興会をサポートしています。当財団初代の理事長に故河本春男前ユーハイム会長が就任し、そして現理事長には河本武ユーハイム会長が務めているからです。

私は、このスポーツ財団と少なからず縁があると感じています。

その理由には、当財団設立が昭和58年12月で35年の年月が過ぎましたが、その昭和58年は、私が入社した年でありました。また、間もなく定年を迎えようとしている私が、最後にこの財団の事務局として関わることになったことも縁を感じるどころです。私自身ドイツとは、ユーハイムのおかげで関わりを持つことができましたが、そんな私が以前はこの財団の活動を存在自体は知っていましたが、長年あまり関わりを持たずにいて、先輩である押尾愛子さんが事務局長として切り盛りしていたことくらいでした。また、振り返ると私がゲーテハウスのユーハイムに勤務していた期間中1989年と1990年に当財団の海外派遣団の表敬訪問を受けましたが、「海外の中の日本」でおもてなしができたことも当財団との関わりがあった縁でした。

さて、昨年12月に当財団が「海外派遣事業100名突破の記念イベント」を開催いたしましたのでその派遣事業についてご紹介をいたします。きっかけは日頃ドイツ関係でお世話になっております柘田会長にこの祝賀パーティーへのご出席を賜り、その時に柘田会長から「会報でユーハイム体育・スポーツ振興会を紹介してよ」と導きいただいたからです。

海外派遣事業の記念誌を作成しましたのでその資料を中心に、報告をさせていただきます。

まず、100名突破達成には、1シーズンに4～5名ですので、毎年繰り返しても四半世紀の25年しかかかる計算です。それに加え、サポートする側のユーハイムも平成7年の大震災で少なからずダメージがありましたから、数年は派遣事業を見送らざるを得ない状況となり、100名派遣には、昭和59年から30有余年の年月がかかりました。その中でもスポーツ先進国のドイツをはじめ、オーストリア、オランダ、東欧のハンガリーなどへ指導者を送り込み、兵庫県をスポーツ先進県へと導く貢献ができたと自負しております。

特にドイツへは、ライプチヒ大学のスポーツ科学で開催している「トレーニング科学・国際集中講座」を中心に延べ72名を派遣し、オーストリアへはグラーツなど14名を派遣し、ドイツ語圏が全体の85%も占めています。

Karl Juchheim 氏もサッカー選手でしたし、河本春男初代理事長も神戸市サッカー協会の会長を務めるなど、その派遣者の中でサッカー指導者関係の派遣実績が多数になっています。当財団は、平成17年11月に国内のスポーツフォーラムでシンポジウムを開催して「日本サッカーの父」デットマール・クラマー氏をお招きして講演会を神戸で開くなどフットボールの発展にも貢献しています。

バウムクーヘンとスポーツは、直接結びつきませんが、私にとって縁あつてのユーハイム体育・スポーツ振興会であると紹介ができましたら幸いです。

ドイツ語談話室

第171回ドイツ語談話室

日 時： 2018年2月17日(土) 14時—16時

場 所： 神戸日協会 会議室

テーマ： 年金制度 日独の比較

今回の司会は林典人氏が担当され、先ず日独の年金制度全体の比較を示された。また、参加者の一人も日本の制度の基準をホワイトボードに例示して書かれた。日本の制度は、基礎年金、厚生年金、企業年金と三層になっていてかつ年金の計算がとても複雑になっている。一方ドイツの年金制度は一層だが職業別の年金に分かれている。以下参加者の発言の一部を紹介する。

—両国とも年金の保険料は給与の約19%で、雇用者と被雇用者が50%ずつを負担する。

—年金受給年齢は、日本は段階的に引き上げて来て、現在の65歳からさらに引き上げる計画。

ドイツでは既に65歳から67歳に引き上げている。両国とも支給開始年齢を選択できる制度にしている。

—ドイツではシュレーダー首相時代の年金改革で、時のリースター厚生労働大臣のもとリースター年金が導入された。これは旧東独市民への給付で崩れる年金財政のバランスを立て直すため、新しく個人年金に税制上の優遇や各種給付・特典を与えて制度化し、年金財政の立て直しを図ったもの。法定年金のみでは老後に不十分との懸念がある場合このリースター年金に加入すべき。

—ドイツでは2千万人の年金受給者がいる。一方日本には4千万人を超える年金受給者がいる。

—日本の年金制度は大変複雑で容易に自分の年金受給額を計算できないし、毎年ほど内容に変更が繰り返されている。

—日本もドイツも少子高齢化が進み、老人は増えるが年金制度を支える若者が減少して来て将来に不安を抱えている。

—年々、所得税、住民税、健康保険料、介護保険料と年金から引かれるものが増え続けている。

—退職すると健康保険料が高くなる。以前は会社が50%負担してくれていたが退職後は全額自己負担となるので厳しい。

—日本でもドイツでも、若いときから将来への備えをする必要に迫られている。

—日本の年金レベルは低い。平均的年金受給者が普通の生活をするためには、年金とは別途に3千万円の預金が必要と言われている。

—日本人は昔から質素で節約を美德としたが、今日は変わってきているようだ。

—日本政府は労働人口の減少からも、年金受給開始年齢を引き上げて将来70歳以上にすることも検討している。

今後のドイツ語談話室の予定

第172回 2018年3月17日(土) 14-16時 テーマ:物の買い方

第173回 2018年4月21日(土) 14-16時 テーマ:日本の大学はどのように変わるべきか

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 171. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 17. Februar 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die Rentensysteme in Japan und in Deutschland

Dieses Mal hatte Herr Norihito Hayashi die Gesprächsleitung und sprach zuerst allgemein über die Rentensysteme in Japan und in Deutschland. Ein Teilnehmer schrieb das Rentensystem Japans auf die Tafel. Das japanische Rentensystem besteht aus drei Arten von Renten, der Basisrente, der sozialen Rentenversicherung und Betriebsrentenversicherungen. Die Berechnung der Renten ist äußerst kompliziert. Das deutsche Rentensystem ist nach Berufssparten gegliedert.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Die Gebühr für die Rente beträgt in beiden Ländern ca. 19% des Einkommens, sie wird zu jeweils 50% von Arbeitgeber und Arbeitnehmer getragen.

-Das Rentenalter in Japan wurde stufenweise erhöht, heute steht es bei 65 Jahren, es wird jedoch noch weiter steigen. In Deutschland wurde das Rentenalter bereits von 65 auf 67 erhöht. In beiden Ländern kann man unter bestimmten Bedingungen das Alter wählen.

-Eine Teilnehmerin erwähnte, dass unter der Regierung Schröder in Deutschland die sogenannte Riester-Rente eingeführt wurde. Diese wurde entwickelt, als auch für die Bürger der ex-DDR die Renten bezahlt werden mussten, und die Rentenkassen der Bundesrepublik damit aus dem Gleichgewicht kamen. Die Riester-Rente ist eine private Rentenversicherung mit vielen Steuervorteilen und auch sonstigen Vergünstigungen. Die Riester-Rente sollte abgeschlossen werden, wenn befürchtet wird, dass die gesetzliche Rente im Alter nicht ausreicht.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass es in Japan mehr als 40 Millionen Rentnerinnen und Rentner gibt, in Deutschland sind es etwa 20 Millionen.

-Ein Teilnehmer sprach davon, dass das japanische Rentensystem sehr kompliziert ist, viel zu kompliziert, als dass man die Rente selbst berechnen könnte. Außerdem ändert sich die Berechnung fast jedes Jahr.

-Ein Teilnehmer erwähnte die Sorgen in beiden Ländern, dass infolge von sinkenden Geburtenzahlen und Überalterung der Gesellschaft in Zukunft Renten nicht mehr ausbezahlt werden könnten.

-Eine Teilnehmerin klagt darüber, dass jährlich immer mehr Einkommensteuer, Bürgersteuer, sowie Gebühren für Kranken- und Pflegeversicherung abgezogen werden.

-Ein weiterer Teilnehmer erwähnte dazu, dass diese Gebühren nach Antritt der Rente stark ansteigen, da man den Anteil, den früher der Arbeitgeber getragen hat, dann auch

selbst bezahlen muss.

-Ein Teilnehmer glaubt, dass man in beiden Ländern schon früh im Leben gut für das Alter vorsorgen muss.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass heutzutage in Japan die Rente nicht ausreicht. Man sagt, dass außer der Rente etwa 30 Millionen Yen an erspartem Geld notwendig sind, um ein normales Leben zu führen.

-Ein Teilnehmer denkt, dass es in Japan früher mehr als Tugend galt, schlicht und sparsam zu leben. Heute scheint sich das geändert zu haben.

-Wegen der Abnahme der Arbeitskräfte überlegt die japanische Regierung für die Zukunft eine Erhöhung des Rentenalters auf 70.

Nächste Treffen:

Samstag 17. März 2018, 14 bis 16 Uhr Thema: Die verschiedenen Arten, Dinge zu kaufen

Samstag 21. April 2018, 14 bis 16 Uhr Thema: Was sollten japanische Universitäten unternehmen, um ihre Qualität zu erhöhen?

「ドイツワインの会」を終えて ～ドイツワインを楽しむきっかけに

理事 日下澄子

1月28日(日)をもちまして、神戸日独協会「ドイツワインの会」はシリーズ最終回(全8回)を終了しました。2016年11月(1回目)～2018年1月(8回目)の間での参加者数は約70名、そのうち半数以上が2回以上のご参加、飲んだワインの数は約50種類！初回から最終回まで満員御礼の大盛況で、株式会社ドイツ商事の松田社長をはじめ、準備のために一緒に奔走して下さった会員さん、会を盛り上げて下さった会員の皆さん、運営を支えて下さった事務局には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

企画の検討は2016年の初夏に若手会員を中心にスタートしました。特別にワインを好んでいるわけでもなければ、特別にアルコールに親しんでいるわけでもないイマドキの若手会員同士で検討した結果、まずは「日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくりになるようなテーマで複数回のシリーズで開催する」というコンセプトに至りました。これは枘田会長や実行委員に、これまでの協会の取り組みを教えていただいたり、ドイツワイン専門店「ローテ・ローゼ」にてお店の方と会話させていただいたり、松田社長にとりよめのない話を聞いていただいた上で夏期集中講義をしていただくなど多大なご協力があった上でのもので、それが企画の骨格と全8回の各回テーマを決めるためのベースとなりました。

若手会員を中心に企画を進めたことは、比較的近い目線で「今」の課題を認識でき、その上で活動を進めた点で意味があったと思います。またご参加いただいた皆さまも、家族や友人との会話でドイツワインを話題にできたり、ワイン売り場でドイツワインの存在が気になったり、SNSなどでも

ドイツワインに関する情報を調べるようになったり…ご自身の中の何らか変化にお気づきになったのではないかと思います。私個人としても、世話役を引き受けてくださった皆さんや参加者の方々とこの体験をともにしたことで「日常的にドイツワインを楽しむきっかけ」以上のものができたことを大変嬉しく思います。皆さん、これからも一緒にドイツワインを飲みましょう！

催し物参加報告

会員によるコンサート

会員 北川 玉恵

去る、2月25日(日)に「会員によるコンサート」が六甲の音楽ホールギャラリー里夢(サトム)で行われました。山手幹線道路に面した閑静な住宅街の中にその音楽ホールがありました。

初めて訪れる方の中には少し道に迷われた方もいらっしゃったようですが、日曜日の夕方16:00から始まるコンサートは集まったお客様ですぐホールが満席になりました。

まず、コンサートの1曲目は平山梨絵さんの「シューマンの パピヨン 作品2」

この曲はシューマンが19歳から21歳のころの作品で12の小品からなる組曲の一つです。しんと静まり返ったホールの中で淡々と響くピアノの音色は、聞いている人を引き付けてそこにいる観客全員の耳が平山さんの奏でるピアノの調べに集中していました。

そして2曲目は「シューベルト トリオ 変ロ長調 D28」

フルート 藤田美紀さん、チェロ ヴェルナー・ケーラー総領事、ピアノ 成光恵さんの3人によるトリオ演奏で、それぞれの楽器の個性がぶつかることなく穏やかに調和されて、ぴったりのハーモニーを醸し出していました。トリオの練習を沢山されたのでしょうか？

3曲目は「ベートーヴェン ピアノソナタ 作品57第1楽章」

上杉恵一さんは、独学でマスターされたとは思えないほどの繊細さと力強さを合わせ持つにピアノに圧倒されました。さすがベートーヴェンという迫力で会場を魅了していました。

後半は少しリラックスをして、ワインやソフトドリンクのお飲み物で休憩をはさみました。

4曲目は「ピアソラ ブエノスアイレスの冬」

再び、藤田美紀さんのフルートでピアノは平山梨絵さんの伴奏で始まりました。この曲はピアソラの四季シリーズで春・夏・秋があり、ご存知の方も大勢いらっしゃったかと思います。どこか哀愁がありタンゴとクラシックの融合のようなフレーズが印象的でした。フィギアスケートの演目曲として聞いたことがあります。

5曲目は「中村八大 上を向いて歩こう」

アメリカのビルボードチャートで1位に輝いた坂本 九が歌うこの曲は会場にいらした外国人の方も思わず口ずさみたくなったのではないのでしょうか？ 成 光恵さん、陣門 華子さんの息の合ったピアノ連弾で会場は盛り上がりました。

最後の 6 曲目は「モーツァルト トルコ行進曲」でジャズ風にアレンジされた曲調でお二人のピアノデュエットで引き続き会場の盛り上がりはピークを迎えました。

もう少し聞いていたいと思える本当に楽しいコンサートでした。そして今回、美味しいドイツワインをご提供いただいたドイツ商事のローテ・ローゼさんには心から感謝いたします。

会員によるコンサートに参加して

会員 上杉 恵一

一昨年末のクリスマス会を初めとして、神戸日独協会に参加させていただいております。

奈良県桜井市に住んでいますが、阪神電車と近鉄が繋がりましたので、約一時間三十分ほどかかりますが、余裕がある時は足を運ぶことにしております。今回はコンサートということで、応募致しましたところ、だんだん不安が募る毎日でしたが、心良く対応していただき、有難うございました。曲目が決めづらくて迷惑を掛けましたが、折角の機会だと思ってベートーベンを弾かせていただくことにしました。弾き終って、もっとやるべき課題が多々あることに気付きました。日独交流150年の重み、素適な開かれた神戸の街並、格調高いドイツ語の重み、そして熱心なボランティア活動されている方々、国際交流の貴重な体験談の数々、いつも会報を読むことを楽しみにしております。演奏をなんとか終えて、熱心に聞いていただいた方から、暖かい励ましをいただいて、ホッと致しました。

後にドイツ総領事ケラーさんを囲んで打ち上げ会もすごく楽しくて勉強になりましたが、ワインが後になって回ってきて、ふらふら遂に立てなくなってダウン、情けない姿を見せてしまい、後悔しております。幸いに相棒がいたおかげで、JR六甲駅までたどり着き、何とか、奈良県まで帰りました。良い経験をさせていただいたことに感謝、感謝、感謝です。

今後とも努力を重ねてまた演奏出来る機会を与えて欲しいと存じます。今後ともよろしくお願い致します。

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

チェロが救ったアニタの命

会員 栞田 節子

アニタ・ラスカー・ヴァールフィッシュ(Anita Lasker-Wallfisch)は1925年ブレスラウ(元ドイツ領、現ポーランド領)で弁護士の父とピアニストの母を持つドイツ系ユダヤ人家族に生まれた。ナチス体制下、アニタが16歳の時に両親は国外追放され、その後は二度と会うことはなかった。残されたアニタと妹レナーテは児童収容所に入れられ、製紙工場で強制労働をさせられた。そこで同じように強制労働をさせられていたフランス人たちが祖国へ帰還するためにと、彼らの証明書の偽造に加担をした。アニタはこの時のことを「ユダヤ人という出自の理由だけで殺されることを受け入れられず、殺されるにはもっとましな理由をドイツ人に突き付けてやろうと決めた」と後に語っている。1943年アニタ姉妹は自ら偽造した証明書を持って逃亡を試みるが、駅で逮捕され投獄された。その5カ月後に2人は別々にアウシュビッツへ移送されたが、その際に彼女らはガス室へ直送

される多くのユダヤ人としてではなく、「犯罪者」として選り分けられた。このことがアニタに生存の幸運をもたらしたのだった。収容所でアニタが「チェロを弾ける」とさりげなく語ったことで、収容所の楽団に入れられ、朝夕収容者たちが強制労働のために収容所を出る時と帰る時に行進曲を演奏させられた。1944年11月ソヴィエト軍がアウシュヴィッツに近づいてくると、アニタ姉妹は家畜車両に乗せられベルゲンベルゼン(Bergen-Belsen)収容所へ移送された。極度に詰め過ぎられたこの収容所では生存条件が更に悪く日々多くの人が餓死した。アニタは後に人畜嗜食(カリバリズム)の証人にもなった。こんな所ですら演奏は行われた。これが彼女の2つ目の幸運。1945年4月15日に英国軍により収容所が解放され、アニタはベルゲンベルゼン収容所をめぐる法廷裁判で証人として供述をした。

戦後アニタはベルギーを経て英国に渡り英国室内楽団(English Chamber Orchestra)の設立メンバーとなり、2000年初めまでチェリストとして活動した。アニタは同郷ブレスラウ出身のピアニストの夫と結婚し、2人の子供がいる。アニタは「私がナチズムやホロコーストのことを話せるようになるまでには50年の時間が必要だった。家族にさえも話せなかった」と後に述べている。その後は度々ドイツを訪問し学校を訪ね、子ども達に体験を話し伝えている。

1996年以降毎年1月下旬にドイツ連邦議会で行われている「ナチズムの犠牲者追悼の日(Tag des Gedenkens an die Opfer des Nationalsozialismus)」の記念講演を今年は1月31日にアニタが行い、チェリストの息子が演奏を行った。

この「ナチズムの犠牲者追悼の日」は1996年に当時のヘルツォーク(Herzog)大統領によって、ソ連軍によりアウシュヴィッツ収容所が解放された1月27日に定められたものである。以降ドイツ連邦議会で「ホロコーストの記憶を追悼する時間(Gedenkstunde im Bundestags Holocaust-Gedenken)」として記念講演が行われている。これに関する記事はドイツ外務省ホームページでもZeit Onlineでも報じられている。ドイツでは過去の過ちを繰り返さないために、過去に向き合うことを忘れていない。この原稿を書いている時に韓国大統領の独立運動の記念式典での発言が報じられてきた。「過去に目を閉じる者は、現在にも盲目となる」というヴァイツゼッカー元大統領の言葉が思い出された。発言の背景などは別として、我々戦争を知らない者も歴史に向き合なければならないとの思いを強くした。

2月22日にヒトラーに抗したミュンヘンの「白いバラ(Weiße Rose)グループ」のショル(Hans und Sophie Scholl)兄妹が処刑されて75年を迎えた。現在これに関する記事を感銘をもって授業で読んでいるが、この「白バラグループ」の抵抗運動も「市民の勇気の手本(Vorbild als Zivilcourage)」として忘れてはならない歴史上の出来事である。

Deutsche Welle: Das Cellospiel rettete ihr Leben: Anita Lasker-Wallfisch (27.01.2018)より

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座の講読クラスLN(火曜日、柘田先生)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています。)

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は3月18日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は4月12日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
3月13日(火) 14:00~	ドイツ文化サロン 「女性が支える国際交流」	ユーハイム神戸元町 本店ホール	3月12日まで
3月17日(土) 14:00~	第172回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
3月18日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
4月5日(木) 19:00~	ハンブルク桜の女王・ ハンブルク独日協会の歓迎会	神戸酒心館 さかばやし	4月3日まで